



時事評論家 増田俊男

## 唯一日本人だけの100年に一度の大金儲けのチャンス！ 今すぐ実行しなくてはならない10項目

これは「小冊子」Vol.127 主題「大不況へ草木もなびく」のは確実！だが日本人にとっては100年に一度の儲けのチャンス！の「おわりに」の副題である。

今の世界の流れは「東西冷戦」。

ウクライナ戦争は冷戦の代理戦争。

丁度第二次戦争直後から始まった米ソ冷戦の代理戦争であった朝鮮戦争やベトナム戦争と同じである。

米ソ冷戦が1945年から1991年まで続いたように2017年トランプ政権が始めた東西冷戦につながる米中冷戦は半世紀続くだろう。

バイデンがロシアをドル基軸金融システム(SWIFT)から除外したように、対中経済包囲網であるインド太平洋経済枠組み(IPEF)と軍事包囲網クワッド(アメリカ、オーストラリア、インド、日本)で中国を追い詰めている。

最も厳しい対露制裁として、ロシアをSWIFT(国際銀行間通信協会)から締め出し、やがて中国制裁の為の粗を探して中国も締め出すだろう。

中国、ロシア、その他 BRIC's 連合(ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ)、上海協力機構等反米、非米諸国と米欧日自由主義陣営との分離、対立が深まり、世界は二分断に向かっている。

2008年9月15日リーマン・ブラザーズの経営破綻で始まった不況は13年間の長きにわたる無制限金融緩和で、世界経済はアメリカ経済主導で不況脱出、勢い余ってバブル化するに至った。

FRBは2021年11月から緩和縮小、本年3月終了、緩和を主因とするインフレ制御の為、引締め政策に転じた。

FRBは、引締め政策はインフレ退治の為と言いながら、今後1年半(2023年末)でゼロ金利はリーマンショック前の5%へ、1,000兆円相当に膨張した資産は半減するという。

短期間にこれだけの利上げと資産縮小が行われれば市場はハードランディングで壊滅状態になるだろう。

パウエル FRB 議長は、今後不況必至は認めながらソフトランディングに努めると言うが、5月20日にニューヨークでお会いしたジム・リカード氏は、ソフトランディングなど「ハドソン川の奇跡」だと言った。

ところが、20日の夜ダボス会議に出ていた FRB の長老とジムと私のカンファレンスコールですべて話は変わった。ジムも私も腰を抜かした！

120%確実なハードランディングが避けられるとは驚いた。

パウエル FRB 議長は夜も寝ないでソフトランディングの為に無駄な策をめぐらせていることになる。

実に冷たい話だが、「そういうものか」と納得した。

今日「小冊子」Vol.127の入稿をしたが、急いで加筆するつもり。

特定の方だけの「インターネット国際政経塾」(増田塾)は今日で2日目だが、明日から「小出し」に話すことになる。

通貨の創造者である中央銀行が操られているのだからパウエル議長、いわんや FRB の日本支社の黒田日銀総裁も操り人形だ。

想像はしていたが、「支配」と言うものがこういうものであることを見せられて震えた。

これではバイデンもプーチンも習近平も、みんな三文役者に過ぎない。

なんのことだかお判りにならないだろう。

明日から「増田塾」で外堀から順にお話しする予定。